

# 石巻市門脇地区における震災復興モデルの提案 —沿岸被災地域の土地の記憶と継承—

A2201315 高橋 歩実

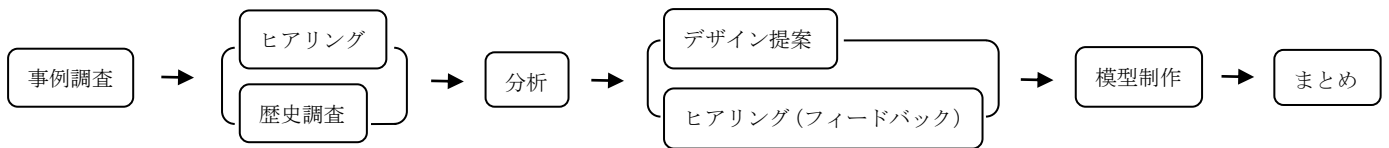
## 研究の背景および概要

東日本大震災において最大の被害を受けた出身地宮城県。中でも石巻市南浜・門脇地区は地震、津波、火災、地盤沈下といった複合的な被害を受け、今回の震災において被災地を代表する地域となっている。また、両親の実家も同じ石巻市内にあることから、ある程度土地勘があった場所でもある。現在、南浜地区は災害危険区域に指定され、復興祈念公園の整備に向けた計画がされている。また門脇地区では土地区画整理事業が開始され、新たなまちの発展を目指した復興事業の計画が進められている。それに伴い今回の研究では、土地の記憶(歴史・思い出等)を調査すると同時に、得られた情報を基に、より地域に適する環境形成の手法について考察を行う。最終的には、それら踏まえデザインした環境模型を震災復興のひとつのモデルとして提案する。

## 研究の目的

制作した環境模型を提示することにより、土地の記憶による復興の手法について、その可能性を訴える。また対象地域の方々に対しては、今後のまちづくりにおける構想の参考材料としてもらうことが目的である。

## 研究のプロセス



## ■事例調査

…「失われた街 模型復元プロジェクト『ふるさとの記憶』(神戸大学機構研究室)

ワークショップ見学

特別展見学・ギャラリートーク聴講



▲「記憶の街ワークショップ」in 石巻(7月)



▲「ふるさとの記憶」みやぎ特別展(12月)

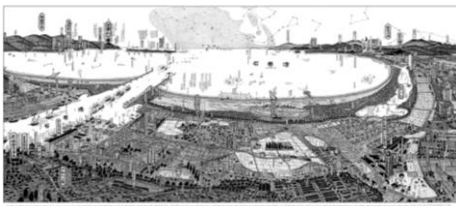


東日本大震災とそれに伴う大津波により失われた街や村を 1/500 の縮尺の模型で復元し、地域に育まれてきた街並みや環境、人々の暮らしの中で紡がれてきた記憶を保存・継承していくことを目指したプロジェクト。その中の「記憶の街ワークショップ」では、失われた街を白模型で復元し、現地の人たちに模型の前で直接「街の記憶」を語ってもらい、模型に表現していくワークショップ。

南浜・門脇地区も取り上げられていたため、ワークショップと完成展示の見学をした。

## ■現地・文献・歴史調査

水田が広がっていたことや鉄道が走っていたことのほか、鉄道沿いに「聖人堀」と呼ばれる水路が通っていたことなど、他にも多くの情報が得られた。また、「浜横丁」や「後町」の通り沿いには、間口が狭く均一で奥行きがあり、かつ「切妻屋根の妻入り住宅」が並んでいたことが分かった。



▲『宮城県石巻港眺望全図』(1950)



▲『石巻港明細図』(1931)



▲聖人堀(1959)

### 調査結果からのキーワード

浜横丁 聖人堀(しょうにんぼり) SL 魚市場 アルプス温泉 かわど 灯籠流し 大漁旗 千石船 まねき土蔵 鹿嶋御児神社 船魂神社 松並木 日和山 水神 海難供養碑 称法寺 西光寺 津方会所 御舟蔵(船賦役所) その他

## ■ヒアリング調査

…阿部公夫さん、本間英一さんはじめ門脇地区にお住まいの方々に対するヒアリング調査。

門脇地区には奇跡的に津波の流出を逃れた本間家の土蔵が震災遺構として保存・展示されている。

また、「門脇町2〜4丁目コミュニティ」と「まねきコミュニティ」が存在し、現在はここを中心に人が集まっている。



▲本間さんへのヒアリングと構想報告

それまでの調査やヒアリング内容を踏まえ、構想していることの報告を行った。奥行きのある妻入り住宅は住みにくい、平屋は津波対策をどうするか等の意見を得ることが出来た。また、実際に門脇地区での話し合いにおいて出た意見等についても聞くことが出来た。



▲本間家土蔵と「まねきの家」



▲本間家土蔵とボランティア団

## ■計画内容

…調査結果からのキーワード(土地の記憶)をまちづくりの要素に転換する

浜横丁 聖人堀(しょうにんぼり) SL 魚市場 アルプス温泉 かわど(かばた) 大漁旗 千石船 まねき 土蔵 鹿嶋御児神社 船魂神社 松並木 日和山 水神 海難供養碑 称法寺 西光寺 津方会所 御舟蔵(船賦役所) その他



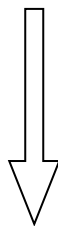
▲大漁旗



▲本間家土蔵



▲アルプス温泉



▲船魂神社



▲SL

復興住宅 水路 遊歩道 魚市場 足湯 かわど(かばた) 灯笼流し 大漁旗 避難路 鎮守の森 松並木

## ■デザイン提案

### 浜横丁復興住宅

…「浜横丁」や「後町」の通り沿いにあった「切妻屋根の妻入り住宅」が並ぶ風景を、復興住宅としてデザインする。

建物は全て間口5m、奥行き15mに統一しているが(平屋は庭部分を含め15m)、間取りのバリエーションを増やすことによって様々な生活パターンに対応出来るようにしている。また、建て詰まりを軽減するため建物を前後にずらしながら緑を取り込み、駐車場もそこに馴染ませるように配置した。

昔から商店や、個人病院等のあったことや、ヒアリングにおいても商店が欲しいとの声が多数聞かれたため、店舗併用タイプの復興住宅を多く設置している。これにより産業が生まれ、人の戻りやすい環境が整っていくと考える。

### 夫婦世帯向け

平屋専用庭タイプ  
(2LDK)



店舗併用パルコニータイプ  
(3LDK)



### 家族世帯向け

中庭タイプ  
(5LDK)



店舗併用中庭タイプ  
(4LDK)



## 成果物(完成作品)

計画敷地模型(1/600)及び拡大模型(1/100)



▲計画敷地模型(1/600)



▲拡大模型(1/100)

計画敷地模型では、日和山から県道石巻女川線までの環境を表現した。聖人堀(しょうにんぼり)があったという歴史から、復興記念公園との境界線となる県道女川線沿いに水路をつくり、松並木も再現した。また、日和山に向かう避難路も3本設置し、そこへ誘導するように、まちなみに大漁旗を並べる。拡大模型では浜横丁復興住宅のある部分を表現した。団地内には水路が流れ、かわど(かばた)を設置している。周りは小広場として緑を整備し、人が自然に寄り集まるよう環境を設計した。

## 考察

復興まちづくりにおいては時間面や財政面等の様々な制約により、地域らしさといった部分が十分に配慮されないままに計画が進められているように感じる。しかし復興後にそこに暮らすのは、それまでその地を故郷として生活してきた人たちであり、被災前の面影の無いまちとなってしまうと、心の拠り所を失くしてしまうのではないだろうか。今回の研究では、対象地域に出来る限り足を運び、住民とのコミュニケーションを大切にしながら、少しでも門脇らしい、人懐っこいまちに出来るよう土地の履歴の把握に努めた。門脇地区では現在も市民部会等において、まちづくりの内容について話し合われているが、住民の人たちにはぜひ門脇の良い所を尊重し、まちづくりの要素としてそれらを活かしていくて欲しいと思う。